

口頭発表 | 2. 育種・遺伝

育種・遺伝1

Chairperson: Keigo Kuchida, Toshio Watanabe(Livestock Improvement Association Japan Inc.), HIROYUKI Hirooka(Graduate School of Agriculture, Kyoto University), YOSHINOBU UEMOTO, Koichi Hagiya(Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine)

Fri. Sep 16, 2022 9:00 AM - 12:00 PM Zoom会場2 (オンライン)

II-16-01~II-16-04 : 口田 圭吾

II-16-05~II-16-07 : 渡邊 敏夫

II-16-08~II-16-10 : 廣岡 博之

II-16-11~II-16-14 : 上本 吉伸

II-16-15~II-16-18 : 荻谷 功一

9:50 AM - 10:00 AM

[II-16-06]黒毛和種の採卵性形質と体型審査形質における遺伝相関の推定

*Atsushi Zoda^{1,2}, Rino Kagawa¹, Yoshio Oono¹, Manami Urakawa¹, Rui Obinata¹, Shinichiro Ogawa³, Yoshinobu Uemoto², Masahiro Sato² (1. Zennoh ET center, 2. Tohoku Univ., 3. NARO)

【目的】採卵性形質の遺伝率は中程度であり、推定育種価の正確度をより早期に高める手段として、間接選抜形質の利用が考えられた。本研究では、採卵性形質と体型審査形質の2形質間の遺伝相関を推定し、体型審査形質の採卵性形質に対する間接選抜指標としての利用可能性について検討した。【方法】2008年から2018年の間に収集された、全農ET研究所で飼養されている供卵牛1,532頭の反復採卵成績19,155件および372頭の体型審査記録を分析に供した。採卵性形質として総回収卵数および高品質胚数を、体型審査形質として11種類の審査項目および5種類の体尺項目を取り上げた。分散成分の推定は、2形質アニマルモデルAI-REML法により行った。【結果】2項目を除き、体型審査形質の推定遺伝率は、採卵性形質の推定遺伝率よりも高かった。体型審査形質との推定遺伝相関は、総回収卵数で-0.24~0.37、高品質胚数で-0.33~0.22の範囲であった。体型審査形質の記録数が少なかったことから推定遺伝相関の標準誤差が大きかったものの、いくつかの項目で好ましい遺伝的関連性が認められた。